

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	おやこ支援室ゆずりは		
○保護者評価実施期間	令和 8 年 3 月 16 日		～ 令和 8 年 3 月 27 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 20
○従業員評価実施期間	令和 8 年 3 月 16 日		～ 令和 8 年 3 月 27 日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8 年 3 月 31 日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種が在籍しており、5領域を意識した支援プログラムの提供が可能である	保育士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の視点からプログラムを組み立てるようになっている。また、実際の食事場面や子ども同士のコミュニケーションの場に機能訓練士が介入することで、個別訓練で行っていることが集団生活の場で活かされている。カリアルタイムで確認・支援することができる。また、保育士の観点からトイトレ等にも力を入れている。	ご家庭や併行利用先の保育園等でも使えるようなツールを確立し、子どもに関わる全ての人が同じ手段で育ちをサポート出来るようにする
2	支援内容や一日の様子を記録と共に写真で確認できるようにしている	写真を添付することで、文章だけでは伝わりにくい部分も知っていただくことが出来ている	記録や写真だけでなく、送迎の際や面談の際に、お子さまの様子をしっかりと伝えるようにすることで、より安心感を感じていただけるようにする。
3	定期的な保護者会の開催(保護者交流や保護者向け講座の開催など)	交流の場だけではなく、保護者向けの講座を企画することで、ご家庭－事業所間の支援に対する相互理解を図っている	引き続き、保護者会の開催を行うと同時に内容の充実を図るため、保護者向けにアンケートを行うなどの取り組みを行う

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動内容が固定化されている	活動部屋の広さが限られていることや異年齢での活動のため、どうしても活動プログラムが固定化されがちである	室内遊びだけではなく、近隣の公園等も利用しながら身体をしっかりと使う機会を増やしていく。また、5領域をしっかりと網羅する活動を支援者全員で検討することで固定化を防ぐ。
2	保育園等への送迎を行っている利用児の保護者様とは、定期的な面談等以外で、直接お会いして話せる機会がない	就労している保護者が増え、送迎ニーズが高まる一方で、直接お話が出来ないことで関係性を構築するまでに時間がかかることもある。	連絡手段の多様化(電話、電子連絡帳など)を継続し、いつでも連絡がとれる環境であることを再度周知する。また、連絡帳の内容を充実させることで安心して通園していただけるようにする。
3	地域との交流機会が不足している	異年齢で療育を行っていることもあり「保育所や幼稚園等との交流や地域の子どもと活動する機会」が設けられていない。	併行利用を検討していくお子さまも多いため、地域の保育園等との交流を早期から行えることはメリットと考える。まずは、近隣の保育園等と交流する機会を年1回からはじめていけるように関係性構築を進めていく(併行利用を検討しはじめる3歳以上児を対象とする)